



主催: We フォーラム 2014 実行委員会
共催: 女子の暮らしの研究所、peach heart

Weフォーラム 2014 in 福島 & ふくしまガールズフェス 2014

水俣から福島へ“希望”を伝える
～ガールズからの発信～



暮らしを見つめ直し、つながりシェアしあう社会へ

2014年8月9日(土)～10日(日)

会場: 福島県郡山市「ミューカルがくと館」

東日本大震災と福島第一原発の事故から3年の月日が流れました。
震災後、We フォーラムでは、福島の人たちの置かれた状況に思いを寄せ、
微力でも何かできることはないかと、2012年には福島県二本松市でWe フォーラムを開催し、
2013年には横浜で引き続きそのテーマを探ってきました。

今年は、福島県郡山市を会場に、福島の若い女性たちの声をさまざまなカタチで発信している
「女子の暮らしの研究所」と、本音を話しやすい場づくりをしている「peach heart」のみなさんと
We フォーラムをつくり上げていきたいと思ひます。

原発事故後、県内にとどまった人も県外に避難した人も、
それぞれの選択に「正解」がないことを確認し合い、福島の人と県外の人、世代の違いをこえて、
今の暮らしを見つめ直し、これからをどう生きるのか、つながり分かちあう場をつくりましよう。

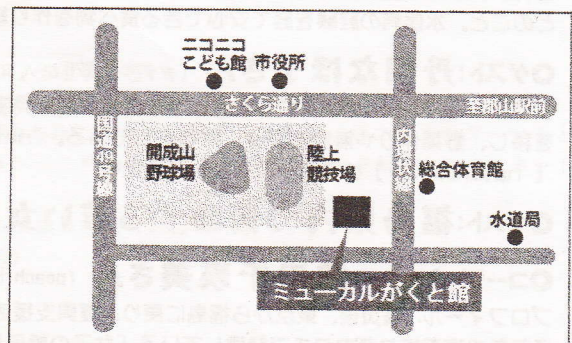
We フォーラムに先立ち、震災から3年たった福島をぜひ見てほしいと「女子の暮らしの研究所」の
企画でスタディツアー「Re:trip」を実施します。ご都合のつく方は併せてぜひご参加下さい。

- 参加費: 8月9日(土) 全体会、8月10日(日) 分科会 各1,500円 (福島の方、学生、経済的事情のある方は500円)
8月9日(土) 交流会(夕食) *全体会終了後、会場近くのレストランで交流会をします。3,000円 (飲み物は別)
オプション: 8月8日(金)からのスタディツアー「Re:trip」25,800円 (郡山駅集合・「ミューカルがくと館」解散)
- 会場: 「ミューカルがくと館」郡山市開成一丁目1-1 電話: 024-924-3715
交通のご案内 (郡山駅前から路線バスご利用の場合、麓山経由大槻行きか休石行き「グランド南口」下車。
またはさくら循環虎丸回り「総合体育館前」下車。所要時間は約10分。)
- 申込方法:

6月11日～7月15日(火)までに別紙申込書にご記入の上、FAX・郵送にてお申込みください。電話・メールでも受け付けます。申込み後、参加費を7月15日(火)までに郵便振替口座(00100-2-163480Weの会)にお振込み下さい。オプションのスタディツアー「Re:trip」と8/9(土)の宿泊は要予約・先着順(40名)となります。

- 申込み・お問合せ: We フォーラム実行委員会事務局
〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野1-21-11 フェミックス内
電話: 045-482-6711 FAX: 045-482-6712
メール: we2014@femix.co.jp

*提供された個人情報は、今回の事業実施のみに利用し、その他の目的で利用することはありません。



8月9日(土)13:30~17:00

(開場・受付 13:00)

◎会場:「ミューカルがくと館」大ホール

◎参加費:1,500円

福島の方、学生、経済的事情がある方 500円

◎定員:150人

全体会:ガールズトークカフェ

カワイイ×これからの暮らしを考える

語り合い、シェアしあうことで、
ゆるやかにつながり、支えあって生きていくためのヒントを探そう



ゲスト:永野三智さん (相思社・水俣病資料館スタッフ・語り部)

丹羽なほ子さん (モデル、NPO 法人田舎のヒロインズ 副理事長)

福島県内で活動する若い女性 (交渉中)

コーディネーター:鎌田千瑛美さん (peach heart 代表、女子の暮らしの研究所 メンバー)

原発事故から3年、福島で暮らす人が放射能のことを考え続けるのはとてもしんどいこと…。だからこそ、軽やかに小さいことから気づき、分かち合える仲間を増やすかを大事にしたい。そのために「おしゃれ」「カワイイ」などを切り口に、若い人たちに会場に足を運んでもらい、福島の〈いま〉と〈これから〉の暮らしを語り合える機会にしたい、との願いを込めての企画です。

水俣を訪ね、福島がいま直面していることが、昔水俣が背負わされた状況と似ていること、これまでそのことに思いを致すことができなかつたことにショックを受けた「女子の暮らしの研究所」のメンバーたち。水俣ではどこに行っても「がんばってね」ではなく、「一緒にがんばろうね」と言ってもらえるのが嬉しく、また、苦しく悲しい思いをしたからこそ、それをプラスに転化しようとする試みが生まれていることに勇気づけられた彼女たちが、水俣とつながりたい、と同世代の永野三智さんを水俣から招きます。農業女性たちのネットワーク「NPO 法人田舎のヒロインズ」の副理事長の丹羽なほ子さん、福島県内で活動する若い女性(交渉中)も加わり、暮らしを見つめ直す思いや、それぞれの活動を語りあいます。

全体会の後半「トークカフェ つながって・向き合って・伝える」では、グループにわかれて参加者同士の対話の場をつくりたいと思います。

◎ゲスト:永野三智さん (相思社・水俣病資料館スタッフ、語り部)

プロフィール: 熊本県水俣市に生まれる。数年の放浪の旅の後、2008年に地元に戻り水俣病センター相思社に患者の相談業務担当として勤務。「水俣や水俣病が恥ずかしくて自分から言えなかつた体験があつてよかった、日々いろんな人がこられるが、ほんのちょっと、行く場所や会おう人が違っていたら私はこの人達の誰にでもなり得たはず、そう思うと来られる方全てが自分のように思えてくる」とのこと。水俣病の経験を経て安心できる食べ物を作り続ける生産者たちと出会い、暮らしのあり方を考え続けている。

◎ゲスト:丹羽なほ子さん (モデル、NPO 法人田舎のヒロインズ 副理事長)

プロフィール: トライアスロンをきっかけに食生活を見直す「スローフード」の考えに行きついて両親が農園をやっている岐阜に拠点を移し、野菜作りや無添加ジャム作りをしている。「natural」フードをたくさん食べて「active」なライフスタイルを提案する【naturactive】のチューターとして活動中。

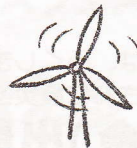
◎ゲスト:福島県内で活動する若い女性 (交渉中)

◎コーディネーター:鎌田千瑛美さん (peach heart 代表、女子の暮らしの研究所 メンバー)

プロフィール: 震災後、東京から福島に戻り、復興支援活動の傍ら、若い女性たちで本音を語る活動「peach heart」や、福島の女子たちの声を様々なカタチで発信している「女子の暮らしの研究所」など、いろいろ活動中。

8月10日(日)10:00～12:00 分科会 (開場・受付 9:40～)

◎会場:「ミューカルがくと館」
◎参加費: 1,500円
福島の方、学生、経済的事情がある方 500円



①ガールズエネルギーワークショップ

◎ゲスト:長井延裕さん (一般社団法人福島おひさま連合専務理事)

普段の生活で人はどれだけのエネルギーを消費し、そのエネルギーはどこから来ているのか? 太陽光パネルを使用して、実際の発電のメカニズムを体験することで、「エネルギー」について見つめ直し、明日からの生活に役立てる知恵を学びます。

ゲストプロフィール:都市銀行、テレビ局勤務を経て独立後、apbank に参加し持続可能社会創りの事業支援活動、東日本大震災復興支援活動に従事。2012年以降は NPO 団体を活動基盤に復興支援、とりわけ福島県にて再生可能エネルギー普及啓発・地域主導の事業化支援の仕組みづくりに参加。

②水俣とつながり学ぶ 映画上映とトークカフェ

◎ゲスト:永野三智さん (相思社・水俣病資料館スタッフ、語り部)

水俣の映画「のさり～杉本栄子の遺言」上映の後、水俣で起こったことや水俣の若い世代の想いを永野さんからお聞きして、福島で暮らす人たち、とくに若い世代がそれに対してどう感じたかなど、対話する時間も設けます。



③福島で活動する 認知症予防「スリーA」ワークショップ

「あかるく、あたまを使って、あきらめない」3つの「あ」で「スリーA」。認知症の高齢者が、日常生活に戻れるようにとの願いから生まれた認知症予防ゲームです。2012年にNPO「認知症予防ネット」が被災地でワークショップをしたとき、涙が出るほど大笑いをして、元気がわいたと言われました。ぜひ、このゲームに参加して、大笑いして、脳の活性化を実感してください。今や「スリーA」の活動は東北3県で展開されています。その活動報告もあります。

*認知症予防ネット <http://www.n-yobo.net/>



女子の暮らしの研究所のメンバーによる「ラボラポラジオ」公開収録も行います。

■8/9～8/10 福島ガールズフェス 2014 マーケットがオープン!

会場:ミューカルがくと館

福島県内外でさまざまな活動をしている団体が一同に集う、またとない機会です!

【農業×食】

- ・福島県内での美味しい食材、お菓子、お土産などを販売予定

【美×ファッション】

- ・iie ちくちくワークショップ
- ・「女子の暮らしの研究所」ブース (県内のカワイイものを扱います)
- ・女子のフリーマーケット
- ・手作り・エシカル・フェアトレード系の商品など

【ココロ×カラダ】

- ・MUSUBU (富岡桜の写真展) など

その他、We や関連書籍・ブックレット等も展示・販売します。ぜひお立ち寄り下さい。



『くらしと教育をつなぐ We』は、誰もが安心して生られる社会の実現をめざして、さまざまなテーマをとりあげ、最先端の情報とささやかであっても希望と可能性を感じさせる試みを紹介しつつ、ネットワークをひろげる雑誌です。

リレーエッセイ「女子の暮らしの研究所」くるくる交換日記も好評連載中です。

◎定価: 800円+税 ◎年間購読料: 5,400円(税・送料込み)

◎購読希望の方は編集部にご連絡ください。

フェミックス <http://www.femix.co.jp>

電話 045-482-6711 FAX045-482-6712 メール jimu@femix.co.jp



【オプション】

スタディーツアー「Re:trip」



～ふくしまの「これから」を考える旅～

ツアー全体のガイドは、ふくしまの今を女子目線で発信する「女子の暮らしの研究所」の研究者が行い、立ち寄り地域では現地の語り部さんに震災当時の様子や現状をお話しいたします。

8月8日(金)出発 1泊2日 (郡山駅集合・「ミューカルがくと館」解散)

●参加費:25,800円 (宿泊、バス代、アテンド案内費含む) 定員:40人 (先着順)

●行程 1日目 8月8日(金)

12:15 郡山駅集合→12:30 出発 (車中で趣旨説明:「女子の暮らしの研究所」の研究者)

13:30 二本松市東和地区の見学とお話(約1時間) 【語り部:菅野瑞穂さん】

16:30 南相馬市小高区市街地、沿岸部の見学とお話(約1時間)【語り部:和田智行さん】

19:00 相馬市松川浦/「なぎさの奏夕鶴」(宿泊) *男女別の相部屋

19:30～夕食懇親会 【語り部:新妻香織さん】

2日目 8月9日(土)

8:30 出発

9:30 飯館村、除染モデルの実証地域の見学とお話(約1時間)【語り部:佐藤健太さん】

12:30頃 郡山市「ミューカルがくと館」到着 *お昼は別料金となります(お弁当の予定)

●語り部:菅野瑞穂さん(きぼうのたねカンパニー株式会社 代表)

1988年福島県二本松市生まれ。大学卒業後、実家の農家を継ぐため二本松市東和地区に戻り、父親の元で有機農業を始める。2013年3月「きぼうのたねカンパニー」を設立。“たねをまくことは、命をつなぐこと”をモットーに「人間社会と自然をつなぐ」新しい未来の農業を創ることを掲げて福島県で生きる人々と向き合い、福島の実状を伝えている。

●語り部:和田智行さん(小高ワーカーズスペース 代表)

1988年福島県南相馬市小高区生まれ。大学卒業後、会社勤めを経て東京でフリーのプログラマーとして独立。2005年にUターンし家族をもったが、原発事故で避難を余儀なくされる。自らを含め、小高区への帰還を目指す人たちが集い、復興に必要なビジネスを生み出す場にしたと「ワーカーズスペース」を2014年5月に立ち上げ活動。

●語り部:新妻香織さん(ふくしま市民発電 代表、相馬市議会議員)『We』186号にインタビュー記事掲載。

1960年福島県生まれ。1990年から5年間でアフリカ28か国を旅する。1998年アフリカの緑化と水資源開発を行う「フー太郎の森基金」創設、2000年松川浦の環境保護団体「はぜっ子倶楽部」を創設。3.11の震災で相馬市尾浜の実家が流出。隣人や同級生を多く失い、被災者支援活動に没頭。「ふくしま市民発電」を創設。2011年11月より相馬市議会議員。

●語り部:佐藤健太さん(NPO法人新文化創造委員会 代表)『We』185号に「Re:trip」報告とお話を掲載。

1982年飯館村生まれ。福島第一原発事故後、村が放射能で高濃度に汚染されたことを知り、子どもや若者を早急に避難させるようTwitter等で訴え続けた。長期的に村民の健康と生活を守るため「健康生活手帳」の作成にも尽力。現在は「福島に100年続く新しい文化を創造する」ことを目指して活動、エンターテインメント集団「ロメオパラディッツ」のプロデュースを行う。

●主な訪問地の空間線量(2014.5.23現在、福島県放射能測定マップより <http://fukushima-radioactivity.jp/>)

二本松市東和地区 0.27 マイクロシーベルト/時 南相馬市小高区 0.14 マイクロシーベルト/時
南相馬市松川浦 0.18 マイクロシーベルト/時 飯館村草野 1.15 マイクロシーベルト/時
郡山市開成町「ミューカルがくと館」付近 0.15 マイクロシーベルト/時

●女子の暮らしの研究所 <http://www.girls-life-labo.com/>

震災と原発事故を受け、「これからの暮らしの見直し」をテーマに2012年12月に結成。ふくしまの女子目線の情報発信を行う。「Re:trip」の企画の他、「福島ピースプロジェクト」「LABOLABOラジオ」の制作などを行う。

「We フォーラム 2014 in 福島」と「Re:trip」参加申込・お問合せ

6月11日～電話・FAX・メールにて先着順。申込締切り7月15日(火)。

参加費の振込も7月15日(火)までをお願いします。振込先:郵便振替口座「00100-2-163480 Weの会」

◎We フォーラム実行委員会 電話:045-482-6711 FAX:045-482-6712 メール: we2014@femix.co.jp

●We フォーラムは、『くらしと教育をつなぐWe』(発行:フェミックス)の読者によってつくられた「Weの会」と開催地の実行委員会によって、毎年開催しています。今年は「女子の暮らしの研究所」「peach heart」と共に開催します。